

2020 年度 後期

東北大学会計大学院アンケート実施報告書

Tohoku University Accounting School

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

1. はじめに

東北大学会計大学院は2005年4月に国立大学法人では初めての会計専門職大学院として開設された。本会計大学院の目的は、グローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである。本会計大学院での教育の理念は、会計分野の知識だけでなく、経済や経営、IT、法律といったこれからの社会で会計の専門家として活躍するために求められる知識と素養を修得することである。この理念を達成するため、私たちは、社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている。このような理念に鑑み、私たちは、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくためのひとつの手段として、毎 Semester 終了後にアンケートを実施している。過去のアンケートは、「アンケート実施報告書」として本会計大学院のウェブサイト で公開している。

私たちがこの報告書を公表する意図は、東北大学会計大学院への入学希望者や、学生の主要な就職先となる監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に、本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。この調査報告書の公開によって、本会計大学院の修了生が高い意欲をもって学習に取り組んでいることを示すことができると考えている。

また、私たちは、このアンケート調査報告書を在学生在が教員に対して発信したメッセージと捉えている。今後とも、私たちはアンケートを通じて改善すべき点を見出し、質の高い教育サービスを提供できるよう努力していきたいと考えている。今年度はCOVID-19の流行に伴い、多くの学生・教員がオンライン講義への対応を迫られた。本アンケートを踏まえ、今後の会計大学院の授業がさらに良いものに改善されていくことを願っている。

本会計大学院は2018年度に会計大学院評価機構による認証評価を受け、すべての基準に適合しているという評価を受けた。2020年度からはビジネスアカウンティングコースを設置し、カリキュラムの体系も見直した。新しいカリキュラム体系の確認のために今回のアンケートの結果を活かしたいと考えている。

2021年5月

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

¹ <http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/classeva.html>

2. 実施方法

本報告書の対象となるアンケートの種類と配布期間・対象者は以下に示す通りである。

①「会計大学院の修了予定者に対するアンケート」（巻末資料 1）

2020年9月にメーリングリストや個人面談時における担任からのアナウンスを通じて Google Form の URL を配布。

②「会計大学院の授業に関するアンケート」（巻末資料 2）

2020年1月15日（金）～2月5日（金）にメーリングリストや担当教員からのアナウンスを通じて Google Form の URL を配布。

両アンケートともに無記名であり、1学生につき1回限りの回答とした。「会計大学院の授業に関するアンケート」はプロジェクト調査・研究以外全ての科目を対象とし、学生は受講している講義ごとに回答を行っている。

本報告書では、まず「会計大学院の修了予定者に対するアンケート」の集計結果から、本会計大学院の教育システム全般に関する分析結果を示して問題点を明らかにし、今後の対応について述べる。続いて、「会計大学院の授業に関するアンケート」の結果を集計し、今semesterに開講された科目について、その教育内容・教育方法全般に関する分析を行い、その問題点を明らかにし、今後の対応を検討する。なお、本報告書ではアンケートにより得られたデータを可能な限り定量的に分析したいと考えている。

「会計大学院の授業に関するアンケート」における科目毎のアンケートの集計結果と自由記入欄の記載内容は、担当教員に原文を直接報告している。ワークショップ委員会では、各教員がこれを通じて次年度以降の講義内容の充実に資することと期待している。

3. 「会計大学院の修了予定者に関するアンケート」の集計結果について

3.1. アンケートの実施状況

本アンケートの URL は 2020 年度 9 月にメーリングリストや個人面談時における担任からのアナウンスを通じて配布され、回収を行った。会計大学院の修了者 39 名のうち、回収数は 19 である（回答率 48.7%）。オンラインでの任意回答であることを踏まえると回答率は参考にすべき水準を保っており、アンケート結果には会計大学院修了生の総意が反映されていると考えられる。

3.2. 設問ごとの集計結果と推移

以下では、それぞれの設問についての集計結果と、過去に「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」においてほぼ同様の内容の質問を行っていた設問 4、設問 5 については、直近 8 年度分の推移を示している。なお、全項目の集計結果については巻末資料を参照されたい。

設問 1 および設問 2（表は未掲載）は受講者属性を問うものであり、19 名の回答のうち、18 名が公認会計士コース、1 名が会計リサーチコースであった。

設問 3: これまでに受講してきた授業をふまえ、授業内容は会計大学院として適切な水準にあると思いますか？

選択項目	2019	2020
適切である	75.00%	36.84%
ほぼ適切である	16.67%	63.16%
どちらともいえない	8.33%	0.00%
やや不適切である	0.00%	0.00%
不適切である	0.00%	0.00%
計	100%	100%
総数	12	19

設問 4: セメスターごとの開講授業科目数のバランスは適切だと思いますか？

選択項目	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
適切である	55.00%	47.83%	44.44%	37.04%	27.78%	47.37%	91.67%	57.89%
ほぼ適切である	30.00%	21.74%	38.89%	37.04%	33.33%	26.32%	8.33%	26.32%
どちらともいえない	10.00%	17.39%	5.56%	14.81%	11.11%	10.53%	0.00%	15.79%
やや不適切である	5.00%	8.70%	0.00%	7.41%	27.78%	15.79%	0.00%	0.00%
不適切である	0.00%	4.35%	11.11%	3.70%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%
総数	20	23	18	27	18	19	12	19

設問 5: 成績評価に用いている GPA は、学生個々の能力を適切に評価できる（た）と思いますか？

選択項目	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
適切である	18.18%	52.17%	33.33%	11.11%	27.78%	50.00%	83.33%	15.79%
ほぼ適切である	45.45%	4.35%	27.78%	44.44%	27.78%	38.89%	16.67%	36.84%
どちらともいえない	27.27%	26.09%	22.22%	18.52%	27.78%	0.00%	0.00%	31.58%
やや不適切である	9.09%	13.04%	11.11%	14.81%	16.67%	11.11%	0.00%	10.53%
不適切である	0.00%	4.35%	5.56%	11.11%	0.00%	0.00%	0.00%	5.26%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%
総数	22	23	18	27	18	18	12	19

設問 6：時間割上の配置について適切だと思いますか？

選択項目	2019	2020
適切である	75.00%	26.32%
ほぼ適切である	25.00%	47.37%
どちらともいえない	0.00%	21.05%
やや不適切である	0.00%	5.26%
不適切である	0.00%	0.00%
計	100%	100%
総数	1	19

設問 7：講義室について満足度をお聞かせください

選択項目	2019	2020
満足である	91.67%	36.84%
ほぼ満足である	8.33%	42.11%
どちらともいえない	0.00%	15.79%
やや不満足である	0.00%	5.26%
不満足である	0.00%	0.00%
計	100%	100%
総数	12	19

設問 8：院生研究室について満足度をお聞かせください

選択項目	2019	2020
満足である	58.33%	47.37%
ほぼ満足である	33.33%	26.32%
どちらともいえない	0.00%	15.79%
やや不満足である	8.33%	5.26%
不満足である	0.00%	5.26%
計	100%	100%
総数	12	19

設問 9：会計大学院のトータルの満足度について

選択項目	2019	2020
満足である	83.33%	52.63%
ほぼ満足である	16.67%	42.11%
どちらともいえない	0.00%	5.26%
やや不満足である	0.00%	0.00%
不満足である	0.00%	0.00%
計	100%	100%
総数	12	19

3.3. 自己評価と今後の課題

ここでは、設問3から9の集計結果をもとに、問題点を抽出するとともに対応を検討する。

設問3（授業内容の水準）については、「適切である」、「ほぼ適切である」と回答した学生の割合を合わせると100%となり、現行の科目配置のバランスは学生たちに高く評価されていると考えられる。

設問4（セメスター間の開設授業科目のバランス）については、「適切である」、「ほぼ適切である」と回答した学生の割合を合わせると84.21%となり、高い満足度を得られていることが読み取れる。

設問5（GPAによる評価）では、「適切である」、「ほぼ適切である」と回答した学生の割合を合わせると52.63%となり、2019年度と比較して低下している。この点については、個人面談の折に修了生や在学期生に対して何名かヒアリング調査を行ったが、特に不満を感じている学生は見られなかった。この割合は2017年度までの割合と概ね同様であるため、2019年度の値がむしろ異常値と解釈すべきかもしれない。今後注視していく必要があるだろう。

設問6（時間割上の配置）では、「適切である」、「ほぼ適切である」と回答した学生の割合を合わせると73.68%となり、学生にとって受講しやすい時間割が組まれていることが読み取れる。時間割上の配置を大きく変更していないにも関わらず2019年度に比べて割合がやや低下しているのは、東北大学BCPレベルの変動に伴ってオンライン講義が取り入れられ、時間割上の配置に関係なく受講可能なオンデマンド講義が普及したことが原因かもしれない。

設問7（講義室の満足度）では、「満足である」、「ほぼ満足である」と回答した学生の割合を合わせると78.95%となり、講義室への満足度は高いものと考えられる。2019年度に比べてやや低下しているのは、東北大学BCPレベルの変動に伴ってオンライン講義が取り入れられ、学生間交流の一因となる講義室での講義が制限されたことが原因にあると考えられる。

設問8（院生研究室の満足度）については、「満足である」、「ほぼ満足である」と回答した学生の割合を合わせると73.68%となり、院生研究室への満足度も高いと考えられる。2019年度に比べてやや低下しているのは、東北大学BCPレベルの変動に伴って院生研究室への出入りに制限が課されたことが原因であると思われる。

設問9（会計大学院の総合的な満足度）では、「満足である」、「ほぼ満足である」と回答した学生の割合を合わせると94.74%となり、当会計大学院への学生の満足度は極めて高いことが判明している。

本アンケートでは修了者に回答者を限定したことを考えると、会計大学院全体の傾向とは異なるかもしれない。しかし、修了予定者は会計大学院の教育制度への理解度が高く、設備を使用した期間も長いため、質の高いアンケート結果であると考えられる。これらの結果を踏まえて、充実したカリキュラムを保持・設計していきたいと考える。

4. 「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

4.1. アンケートの実施状況

「会計大学院の授業に関するアンケート」は、前述の通り、プロジェクト調査・研究以外全ての科目である30科目について実施された。アンケート実施科目と履修者・アンケート回収数をまとめると表1のようになる。今回のアンケートでは、述べ履修者数393名に対して181名から回答を得た。アンケートの回答率は46.06%である。オンライン講義の性格上直接学生に配布できないことから例年と比較すると回答率は低下しているが、オンラインでの任意回答であることを踏まえると参考にすべき水準である。

授業科目名	履修者数	回収数
財務会計2	31	23
企業評価	6	5
簿記2	23	9
公会計1	34	14
I F R S 1	15	5
財務会計の理論と実証	2	2
事例研究 (I F R S)	1	1
管理会計1	17	6
原価計算2	23	9
監査2	10	6
監査実務1	19	6
監査実務2	7	3
監査計画の編成法1	31	9
内部統制の実務	18	4
経営管理	13	5
コーポレートファイナンス1	24	6
企業情報システム	5	5
情報システム設計	17	13
戦略情報システム導入	4	2
金融行政2	2	1
財務行政	13	11
企業法2	9	6
消費税法	5	3
事例研究 (企業法)	7	6
事例研究 (法人税法)	4	3
事例研究 (会計職業倫理)	21	7
ビジネス・プレゼンテーション1	6	3
英文外書講読b	23	6
ワークショップb	3	2
合計	393	181

表1：アンケート実施科目と回収数

4.2. アンケートに関する基本統計量

各設問の選択肢に付与された数字は、好ましい回答ほどの値が大きくなるよう設定されているため（設問1を除く）、この数値化によって回答の平均値、中央値、最頻値の算出を行った。あわせて、参考のため標準偏差も計算した。その結果は以下の通りである。なお、アンケートの内容については資料2を参照されたい。

項目\設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	試験対策	キャリア	資格
6	36															
5	87	172	4	8	20	81	129	151	156	136	131	125	143	80	126	76
4	35	8	3	1	3	85	46	27	22	40	40	42	33	27	36	
3	21	0	8	14	17	11	4	2	3	4	7	11	3	47	14	78
2	0	0	23	22	20	3	2	1	0	1	2	3	2	11	5	
1	0	1	46	61	41	1	0	0	0	0	1	0	0	16	0	27
0	2		97	75	80											
合計	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181
平均値	4.72	4.93	0.82	1.06	1.35	4.34	4.67	4.81	4.85	4.72	4.65	4.60	4.75	3.80	4.56	3.54
中央値	5	5	0	1	1	4	5	5	5	5	5	5	5	4	5	3
最頻値	5	5	0	0	0	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3
標準偏差	1.03	0.36	1.14	1.26	1.65	0.71	0.58	0.46	0.40	0.53	0.66	0.68	0.54	1.30	0.75	1.41

表2：アンケートの基本統計量

これまでのアンケート結果と同様、設問3（予習）、設問4（復習）、設問5（宿題）、設問16（資格）以外は、平均値が概ね4以上であり、中央値や最頻値も概ね最高評価の5である。この傾向は過去数年と大きな違いはなく、今年度は突然のオンライン講義となったにもかかわらず、会計大学院の講義に対する評価はこれまでと変わらず良好である。ただし、授業の予習、復習、宿題にかかる時間はあまり多くない状態が何年も続いている。設問3（予習）、設問4（復習）、設問5（宿題）に回答した学生のうちの半数以上が2時間以下しか学習時間を確保していない。これは過年度の傾向と同様であり、継続的にこれに対処する方法を模索する必要がある。全体として、学生の各講義に対する評価は高い水準にあるといえるものの、予習・復習・宿題にかかる時間を一定数確保するように授業を設計する必要があるといえる。

4.3. 各設問間の相関

質問項目間の相関関係をみるために、表3を作成した。なお、設問1は受講者属性を表すため相関係数を算出することに意味が乏しいため除外しており、±0.50以上の相関係数については太字にしている。設問16の資格については、より高い資格であるほど高いスコアとなるようになっている。

設問	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	試験対策	キャリア	資格
2 出席	1														
3 予習	0.051	1													
4 復習	0.032	0.679	1												
5 宿題	0.030	0.399	0.364	1											
6 理解	0.001	0.089	0.096	-0.081	1										
7 難易度	-0.026	0.009	0.025	0.028	0.607	1									
8 教員準備	0.093	0.093	0.085	0.028	0.279	0.436	1								
9 プレゼン	0.005	0.106	0.135	0.048	0.390	0.396	0.711	1							
10 教材	0.018	0.025	-0.002	-0.027	0.529	0.600	0.628	0.648	1						
11 評価方法	-0.006	-0.012	0.010	-0.039	0.532	0.706	0.421	0.455	0.646	1					
12 シラバス	0.026	0.069	0.007	0.007	0.542	0.618	0.505	0.456	0.575	0.690	1				
13 教員評価	0.000	0.025	0.045	-0.040	0.508	0.629	0.624	0.588	0.748	0.703	0.621	1			
14 試験対策	-0.041	0.153	0.302	0.102	0.347	0.395	0.196	0.327	0.381	0.352	0.263	0.355	1		
15 キャリア	-0.025	0.074	0.118	0.109	0.345	0.507	0.470	0.449	0.538	0.466	0.412	0.567	0.495	1	
16 資格	-0.104	-0.055	-0.141	0.000	0.247	0.289	0.158	0.263	0.264	0.312	0.344	0.267	0.084	0.181	1

表3：質問項目間の相関関係

まず、学生の学習時間に関する予習（設問3）、復習（設問4）、宿題（設問5）に注目する。過年度と同様に、予習（設問3）と復習（設問4）の間では比較的高い正の相関が見られる。これらの設問は学生の会計大学院の授業に関連する勉強時間についてのものであり、予習をよく行う学生は復習もよく行うことを示している。一方、近年では、予習（設問3）や復習（設問4）と宿題（設問5）との相関がやや低下傾向にある。今年度の講義がオンラインであったことが関係しているかもしれないが、宿題を課す講義から、学生側の自発的な予復習を促す講義へと講義の性質が移行している可能性がある。なお、学習時間（設問3～5）は、授業評価（設問6～13）や学生の将来につながる授業かどうか（設問14, 15）とほとんど相関していない。そのため、学習時間が短いことで難易度や理解水準、将来に役立つ性質が低下しているような傾向は見られない。

次に、授業評価に関する理解（設問6）、授業の難易度（設問7）、教員の準備（設問8）、プレゼン（設問9）、教材（設問10）、評価方法（設問11）、シラバス（設問12）、教員評価（設問13）に着目する。これらは、それぞれ互いに高い正の相関関係を有する。適切な難易度設計や評価方法、シラバスに始まる十分な準備やプレゼンや教材の設定、高い教員評価は、それぞれ密接に関係していると判断できる。

さて、試験対策（設問14）とキャリア（設問15）という、将来の進路に関する有用性という特徴に着目する。全体として、試験対策（設問14）よりもキャリア（設問15）の方が、授業評価に関する回答（設問7～13）との関係がやや強い。本学では倫理教育や英語教育など、会計士試験と直結しなくとも長期的に学生の将来に有用な講義を開講している。ビジネスアカウンティングコースや会計リサーチコースの学生比率がやや高まっていることから、授業評価において将来の進路に役立つ授業であることの重要性が高まってきていることが読み取れる。

これらの傾向はおおむね、過去と同様である。上記の表については過去の報告書でも報告されている。過去の報告書については、会計大学院WEBサイトを参照されたい (<http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/classeva.html>)。

4.4. 設問ごとの集計結果と所見

以下では、それぞれの設問についての集計結果と過去4年間の推移を示し、各々所見を示す。なお、アンケート全項目の集計結果については巻末資料4を参照されたい。

設問1：あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい

選択項目	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期
公認会計士コース（2年）	31.28%	26.06%	31.28%	34.55%	20.67%	23.18%	33.00%	19.89%
公認会計士コース（1年）	55.31%	60.56%	55.31%	50.30%	69.33%	59.86%	37.67%	48.07%
会計リサーチコース	6.15%	4.93%	6.15%	12.12%	7.00%	9.00%	8.33%	19.34%
ビジネスアカウンティングコース							12.67%	11.60%
経済経営学専攻	0.56%	0.70%	0.56%	1.21%	0.33%	5.19%	3.00%	0.00%
経済学部	6.70%	3.52%	6.70%	1.21%	2.67%	1.04%	4.33%	0.00%
その他	0.00%	4.23%	0.00%	0.61%	0.00%	1.73%	1.00%	1.10%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	179	142	179	165	300	289	300	181

受講者属性に大きな傾向の変化はなかった。

設問2：この授業にどのくらい出席しましたか？（おおよその出席率で回答して下さい）

選択項目	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期
90%以上	84.36%	65.49%	84.36%	83.54%	91.13%	84.51%	94.67%	95.03%
89-70%	8.38%	26.06%	8.38%	9.76%	3.75%	9.51%	4.33%	4.42%
69-50%	2.23%	2.82%	2.23%	1.83%	1.02%	3.52%	0.00%	0.00%
49-20%	1.68%	3.52%	1.68%	3.05%	0.68%	1.41%	0.33%	0.00%
20%未満	3.35%	2.11%	3.35%	1.83%	3.41%	1.06%	0.67%	0.55%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	179	142	179	164	293	284	300	181

2016年度後期、2017年度後期に90%以上出席した学生の割合が7割前後となっていることが問題視されたが、2018年度以降は8割以上に回復している。出席率が低下しないように各教員が工夫した成果であると考えられる。

以下、設問3から設問5は、学生の時間外での学習に係る設問であることからまとめて検討する。

設問3：この授業の予習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？（セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。）

選択項目	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期
5時間以上	4.49%	2.82%	4.49%	1.82%	5.25%	4.55%	4.00%	2.21%
4-5時間	2.25%	1.41%	2.25%	1.82%	3.93%	3.15%	1.00%	1.66%
3-4時間	3.93%	2.11%	3.93%	12.12%	8.20%	10.49%	7.33%	4.42%
2-3時間	11.80%	12.68%	11.80%	10.91%	13.11%	14.69%	17.00%	12.71%
1-2時間	34.83%	34.51%	34.83%	32.73%	31.15%	33.57%	29.67%	25.41%
1時間未満	42.70%	46.48%	42.70%	40.61%	38.36%	33.57%	41.00%	53.59%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	178	142	178	165	305	286	300	181

設問4：この授業の復習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？（宿題に掛けた時間を含めずに回答して下さい。）

選択項目	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期
5時間以上	7.34%	4.23%	7.34%	2.41%	3.61%	3.15%	4.33%	4.42%
4-5時間	1.69%	1.41%	1.69%	1.20%	4.59%	5.24%	3.00%	0.55%
3-4時間	3.95%	4.93%	3.95%	10.84%	10.82%	7.69%	9.00%	7.73%
2-3時間	14.12%	15.49%	14.12%	12.05%	13.11%	21.68%	15.67%	12.15%
1-2時間	46.33%	41.55%	46.33%	39.16%	40.66%	32.52%	37.67%	33.70%
1時間未満	26.55%	32.39%	26.55%	34.34%	27.21%	29.72%	30.33%	41.44%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	177	142	177	166	305	286	300	181

設問5：この授業の宿題に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？

選択項目	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期
5時間以上	9.71%	3.68%	9.71%	3.66%	5.26%	8.13%	6.00%	11.05%
4-5時間	4.57%	5.15%	4.57%	1.83%	7.24%	4.24%	3.67%	1.66%
3-4時間	10.29%	8.82%	10.29%	9.76%	12.50%	9.54%	9.00%	9.39%
2-3時間	14.86%	13.97%	14.86%	14.02%	20.72%	17.31%	17.67%	11.05%
1-2時間	32.57%	34.56%	32.57%	30.49%	30.26%	28.62%	38.33%	22.65%
1時間未満	28.00%	33.82%	28.00%	40.24%	24.01%	32.16%	25.33%	44.20%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	175	136	175	164	304	283	300	181

設問3から設問5に回答した学生のうちの半数以上が2時間以下しか学習時間を確保しておらず、過年度の傾向と同様となった。学習時間の確保は担当教員にとって継続的な課題であるが、予習、復習、宿題のいずれに重点を置かは科目担当員の裁量によるところである。科目特性に応じて、何に力点を置くのかを明示し、学習時間を学生に確保させるように継続して工夫する必要があるといえよう。

設問6：この授業の内容をどの程度理解できたと思いますか？

選択項目	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期
理解できた	32.40%	38.30%	32.40%	37.04%	33.55%	50.35%	39.33%	44.75%
ほぼ理解できた	46.93%	50.35%	46.93%	47.53%	48.21%	36.01%	47.67%	46.96%
どちらともいえない	15.64%	9.93%	15.64%	13.58%	14.66%	10.49%	8.33%	6.08%
あまり理解できなかった	5.03%	0.71%	5.03%	1.85%	2.93%	2.80%	3.67%	1.66%
理解できなかった	0.00%	0.71%	0.00%	0.00%	0.65%	0.35%	1.00%	0.55%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	179	141	179	162	307	286	300	181

講義内容を「理解できた」または「ほぼ理解できた」と回答した学生の割合はこれまでと同様高い水準を維持している。この水準を今後も維持する必要がある。

設問7：この授業の難易度は会計大学院の授業として適切だと思いますか？

選択項目	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期
適切	63.69%	63.12%	63.69%	75.93%	66.88%	73.70%	66.33%	71.27%
ほぼ適切	28.49%	31.21%	28.49%	18.52%	25.00%	19.72%	24.00%	25.41%
どちらともいえない	5.03%	4.26%	5.03%	4.94%	6.17%	5.19%	6.67%	2.21%
やや不適切	2.23%	0.71%	2.23%	0.62%	1.62%	1.04%	1.67%	1.10%
不適切	0.56%	0.71%	0.56%	0.00%	0.32%	0.35%	1.33%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	179	141	179	162	308	289	300	181

難易度が「適切」または「ほぼ適切」と回答した学生の割合は従来と同じように約9割であり、難易度の設定は適切であると考えられる。今後もこの水準を維持したいと考えている。

設問8：教員のこの授業に対する準備は十分でしたか？

選択項目	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期
十分	80.34%	72.86%	80.34%	80.72%	79.80%	82.35%	67.00%	83.43%
ほぼ十分	15.17%	24.29%	15.17%	14.46%	13.68%	12.46%	20.00%	14.92%
どちらともいえない	2.81%	1.43%	2.81%	3.61%	4.56%	4.15%	9.67%	1.10%
やや不十分	1.69%	0.71%	1.69%	0.60%	1.63%	0.35%	2.00%	0.55%
不十分	0.00%	0.71%	0.00%	0.60%	0.33%	0.69%	1.33%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	178	140	178	166	307	289	300	181

教員の準備が「十分」または「ほぼ十分」と回答した学生の割合は約9割であり、従来と同じように高い水準となった。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問9：教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？

選択項目	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期
良かった	71.51%	70.71%	71.51%	79.52%	77.20%	82.35%	63.67%	86.19%
まあまあ良かった	21.23%	23.57%	21.23%	16.27%	13.36%	11.07%	20.67%	12.15%
どちらともいえない	4.47%	2.14%	4.47%	3.61%	6.84%	5.19%	11.00%	1.66%
やや悪かった	1.68%	2.86%	1.68%	0.60%	2.28%	0.69%	2.00%	0.00%
悪かった	1.12%	0.71%	1.12%	0.00%	0.33%	0.69%	2.67%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	179	140	179	166	307	289	300	181

教員のプレゼンテーションが「良かった」または「まあまあ良かった」と回答した学生は約9割であり、従来と同じように高い水準にある。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問10：テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？

選択項目	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期
適切	42.80%	70.00%	65.54%	75.90%	69.81%	78.20%	66.33%	75.14%
ほぼ適切	16.24%	26.43%	24.86%	16.27%	19.16%	11.76%	23.00%	22.10%
どちらともいえない	4.06%	1.43%	6.21%	6.63%	7.14%	7.96%	6.67%	2.21%
やや不適切	2.21%	2.14%	3.39%	1.20%	3.57%	1.04%	3.00%	0.55%
不適切	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.32%	1.04%	1.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	171	140	177	166	308	289	300	181

テキスト等が「適切」または「ほぼ適切」と回答した学生の割合は9割程度であり、従来と同じように高い水準にある。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問11：この授業の成績評価の方法は適切だと思いますか？

選択項目	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期
適切	70.62%	67.86%	70.62%	84.94%	77.27%	78.55%	59.67%	72.38%
ほぼ適切	23.73%	25.00%	23.73%	13.25%	16.23%	12.46%	26.67%	22.10%
どちらともいえない	3.95%	5.00%	3.95%	1.81%	5.52%	5.88%	9.33%	3.87%
やや不適切	0.56%	2.14%	0.56%	0.00%	0.97%	2.08%	3.33%	1.10%
不適切	1.13%	0.00%	1.13%	0.00%	0.00%	1.04%	1.00%	0.55%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	177	140	177	166	308	289	300	181

成績評価の方法が「適切」または「ほぼ適切」と回答した学生の割合は9割程度であり、従来と同様に高い水準にある。成績評価はGPAによる評価の基礎となっているため、学生からの納得感は重要である。ほとんどの学生は適切に成績評価が行われていると感じており、今後もこれを維持する必要がある。

設問12：この授業のシラバスは授業を理解する上で役に立ちましたか？

選択項目	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期
役に立った	58.19%	50.71%	58.19%	71.69%	69.48%	73.70%	62.00%	69.06%
まあまあ役に立った	28.81%	32.86%	28.81%	19.28%	21.10%	16.26%	21.67%	23.20%
どちらともいえない	11.30%	12.86%	11.30%	9.04%	8.44%	7.61%	11.67%	6.08%
あまり役に立たなかった	0.00%	2.14%	0.00%	0.00%	0.97%	2.08%	2.33%	1.66%
役に立たなかった	1.69%	1.43%	1.69%	0.00%	0.00%	0.35%	2.33%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	177	140	177	166	308	289	300	181

シラバスが「役に立った」または「まあまあ役に立った」と回答した学生の割合は9割程度であり、従来と同じように高い水準を維持している。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 13：総合的に見て、この授業における教員のパフォーマンスをどう評価しますか？

選択項目	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期
評価できる	73.18%	72.14%	73.18%	80.72%	75.00%	78.89%	63.00%	79.01%
まあまあ評価できる	21.23%	22.14%	21.23%	14.46%	17.86%	15.92%	24.00%	18.23%
どちらともいえない	5.03%	3.57%	5.03%	4.82%	5.52%	2.42%	7.33%	1.66%
あまり評価できない	0.00%	1.43%	0.00%	0.00%	0.97%	1.73%	4.00%	1.10%
評価できない	0.56%	0.71%	0.56%	0.00%	0.65%	1.04%	1.67%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	179	140	179	166	308	289	300	181

教員のパフォーマンスを「評価できる」または「まあまあ評価できる」とした学生の割合は9割を超えており、従来と同様に高い水準を維持している。総合的に教員に対する学生からの満足度は高いと考えられるため、今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 14：この授業は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？

選択項目	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期
役立つ	57.80%	50.74%	57.80%	61.59%	55.05%	59.23%	57.33%	44.20%
まあまあ役に立つ	26.01%	25.74%	26.01%	12.80%	18.57%	13.94%	20.67%	14.92%
どちらともいえない	8.67%	14.71%	8.67%	12.20%	15.96%	15.68%	13.33%	25.97%
あまり役に立たない	4.05%	5.88%	4.05%	9.15%	4.56%	4.88%	4.33%	6.08%
役に立たない	3.47%	2.94%	3.47%	4.27%	5.86%	6.27%	4.33%	8.84%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	173	136	173	164	307	287	300	181

公認会計士試験の受験に「役立つ」または「まあまあ役立つ」と回答した学生の割合は、2020年度後期にやや低下している。これはビジネスアカウンティングコース学生の増加に伴い、公認会計士試験に「直結」する科目以外が充実してきたことを反映しているものと思われる。

設問 15：この授業は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか？

選択項目	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期
役立つ	67.60%	66.19%	67.60%	78.92%	66.45%	71.97%	64.67%	69.61%
まあまあ役に立つ	25.14%	27.34%	25.14%	17.47%	20.20%	16.26%	23.67%	19.89%
どちらともいえない	4.47%	5.76%	4.47%	3.01%	10.10%	8.65%	9.00%	7.73%
あまり役に立たない	2.23%	0.00%	2.23%	0.60%	0.98%	1.04%	1.67%	2.76%
役に立たない	0.56%	0.72%	0.56%	0.00%	2.28%	2.08%	1.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	179	139	179	166	307	289	300	181

将来のキャリアに「役立つ」または「まあまあ役立つ」と回答した学生の割合は9割程であり、従来と同じように高い水準を維持している。今後もこの水準を維持する必要がある。

最後に、設問 16「あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。」につき、2020年度後期の集計結果について述べる。ここでは、資格試験を3段階(①日商簿記1級レベル以上、②2級レベル、③それ以下)に分けて、どの段階の知識を有している状況にあるのかについて質問した。入試段階で一定の簿記の素養を確認しているため、学生は概ね日商簿記2級レベル以上の実力は有していると考えられる。ただし、本質問では、資格の有無を問うているので、必ずしも実力と連動するわけではないことに留意が必要である。

2020年度後期では、①41.99%、②43.09%、③14.92%であった。2020年度後期については、半数以上の学生が2級レベルの知識を有しており、1級レベル以上の知識を有している学生も4割と多い。ただし、3級以下の学生も2割程度いることから、必ずしも計算能力の高くない学生が存在することに留意して授業設計を行う必要があるといえる。

4.5. 自由記入欄の意見について

「会計大学院の授業に関するアンケート」に設けられた自由記入欄については、科目担当教員による対応が必要であるので、寄せられた意見はこれまで通り担当教員へ報告し、改善すべき点は改善を行うよう依頼している。

5. 結び

2020年度後期における「会計大学院の修了予定者に対するアンケート」と「会計大学院の授業に関するアンケート」の集計結果等をふまえると、本会計大学院の授業は総合して良好な評価を得ていると考えられる。本会計大学院が抱える課題については、学生の学習時間の確保である。予習・復習・宿題にかかる1日あたりの時間は、多くの学生で2時間以下となっている。個々の授業の設計は各教員の裁量に委ねるところであるが、学生の学習時間がきちんと確保されるように継続して工夫することが必要であると考えられる。最後に、アンケートに真摯に取り組んでいただいた学生各位に感謝を申し上げる。

修了予定者に対するアンケート（2020年度）

このアンケートは、会計大学院のカリキュラムや施設等に改善に役立てることを目的として、本年度に修了予定の学生を対象として実施いたします。是非とも会計大学院の発展と後輩のためにご協力くださればと思います。本アンケートは無記名で実施いたします。個人が特定できるようなおそれがある場合にはコースや出身、自由記述欄につき、回答しなくてもかまいません。回答には東北大IDが必要となります。なお、誰がどのような回答したのかについての情報は一切公表せず、集計された結果のみを伝達します。ただし、自由記述については原則として原文のまま担当者に伝達します。

番号	質問	回答
1	あなたのコースについて、該当するものを選んで下さい。	(1) 公認会計士コース (2) 会計リサーチコース (3) ビジネスアカウンティングコース
2	入学前の状況	(1) 学部（日本の大学） (3) 社会人（企業等に勤務） (2) 学部（海外の大学） (4) その他
3	これまでに受講してきた授業をふまえ、授業内容は会計大学院として適切な水準にあると思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
4	セメスターごとの開設授業科目数のバランスは適切だと思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
5	成績評価に用いているGPAは、学生個々の能力を適切に評価できる（た）と思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
6	時間割上の配置について適切だと思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
7	講義室について満足度をお聞かせください	(5) 満足である (2) やや不満足である (4) ほぼ満足である (1) 不満足である (3) どちらともいえない
8	院生研究室について満足度をお聞かせください	(5) 満足である (2) やや不満足である (4) ほぼ満足である (1) 不満足である (3) どちらともいえない
9	会計大学院のトータルの満足度について	(5) 満足である (2) やや不満足である (4) ほぼ満足である (1) 不満足である (3) どちらともいえない

自由記入欄

（授業、施設、その他の事項について、ご自由にご意見を記述ください（個人を中傷する内容はお控えください））。

※今年度のアンケートはGoogle Formで実施しています。表示形式は異なりますが、設問・選択肢は記載の通りです。

資料2：2020年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」設問用紙

会計大学院の授業に関するアンケート（2020年度後期）

このアンケートは会計大学院の授業改善に学生諸君の意見を反映するためのものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(6) 公認会計士コース（2年） (2) 経済経営学専攻 (5) 公認会計士コース（1年） (1) 経済学部 (4) 会計リサーチコース (0) その他 (3) ビジネスアカウンティングコース

科目内容について

番号	質問	回答
2	この授業にどのくらい出席しましたか？（おおよその出席率で回答して下さい）	(5) 90%以上 (4) 89-70% (3) 69-50% (2) 49-20% (1) 20%未満
3	この授業の予習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？（セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。）	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満
4	この授業の復習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？（宿題に掛けた時間を含めずに回答して下さい。）	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満
5	この授業の宿題に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満
6	この授業の内容をどの程度理解できましたか？	(5) 理解できた (4) ほぼ理解できた (3) どちらともいえない (2) あまり理解できなかった (1) 理解できなかった
7	この授業の難易度は会計大学院の授業として適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である

番号	質問	回答
8	教員のこの授業に対する準備は十分でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった
9	教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった
10	テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である
11	この授業の成績評価の方法は適切であると思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である
12	この授業のシラバスは授業を理解する上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった
13	総合的に見て、この授業における教員のパフォーマンスをどう評価しますか？	(5) 評価できる (4) まあまあ評価できる (3) どちらともいえない (2) あまり評価できない (1) 評価できない
14	この授業は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない
15	この授業は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない
16	あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 or 公認会計士 短答式・論文式 or 日商簿記1級 (3) 日商簿記2級 (1) 上記について無し
	《自由記入欄》	授業の感想、担当教員への要望、また本アンケートの各質問に関連した更なる意見等を自由に記入して下さい。

※今年度のアンケートは Google Form で実施しています。表示形式は異なりますが、設問・選択肢は記載の通りです。

資料3：2020年度後期「会計大学院の修了予定者に対するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1	公認会計士コース	18	94.74%
回答者属性	会計リサーチコース	1	5.26%
	合計	19	100.00%
設問2	学部（日本の大学）	16	84.21%
入学前の状況	学部（海外の大学）	1	5.26%
	社会人（企業等に勤務）	2	10.53%
	その他	0	0.00%
	合計	19	100.00%
設問3	適切である	7	36.84%
これまでに受講してきた授業をふまえ、授業内容は会計大学院として適切な水準にあると思いますか？	ほぼ適切である	12	63.16%
	どちらともいえない	0	0.00%
	やや不適切である	0	0.00%
	不適切である	0	0.00%
	合計	19	100.00%
設問4	適切である	11	57.89%
Semesterごとの開講授業科目数のバランスは適切だと思いますか？	ほぼ適切である	5	26.32%
	どちらともいえない	3	15.79%
	やや不適切である	0	0.00%
	不適切である	0	0.00%
	合計	19	100.00%
設問5	適切である	3	15.79%
成績評価に用いているGPAは、学生個々の能力を適切に評価できる（た）と思いますか？	ほぼ適切である	7	36.84%
	どちらともいえない	6	31.58%
	やや不適切である	2	10.53%
	不適切である	1	5.26%
	合計	19	100.00%
設問6	適切である	5	26.32%
時間割上の配置について適切だと思いますか？	ほぼ適切である	9	47.37%
	どちらともいえない	4	21.05%
	やや不適切である	1	5.26%
	不適切である	0	0.00%
	合計	19	100.00%
設問7	満足である	7	36.84%
講義室について満足度をお聞かせください。	ほぼ満足である	8	42.11%
	どちらともいえない	3	15.79%
	やや不満足である	1	5.26%
	不満足である	0	0.00%
	合計	19	100.00%
設問8	満足である	9	47.37%
院生研究室について満足度をお聞かせください	ほぼ満足である	5	26.32%
	どちらともいえない	3	15.79%
	やや不満足である	1	5.26%
	不満足である	1	5.26%
	合計	19	100.00%
設問9	満足である	10	52.63%
会計大学院のトータルの満足度について	ほぼ満足である	8	42.11%
	どちらともいえない	1	5.26%
	やや不満足である	0	0.00%
	不満足である	0	0.00%
	合計	19	100.00%

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります。

資料4：2020年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 回答者属性	公認会計士コース(2年)	36	19.89%
	公認会計士コース(1年)	87	48.07%
	会計リサーチコース	35	19.34%
	ビジネスアカウンティン グコース	21	11.60%
	経済経営学専攻	0	0.00%
	経済学部	0	0.00%
	その他	2	1.10%
合計	181	100.00%	
設問2 この講義にどのくらい 出席しましたか。	90%以上	172	95.03%
	89-70%	8	4.42%
	69-50%	0	0.00%
	49-20%	0	0.00%
	20%未満	1	0.55%
合計	181	100.00%	
設問3 この講義の予習にどの くらいの時間を掛けま したか。	5時間以上	4	2.21%
	4-5時間	3	1.66%
	3-4時間	8	4.42%
	2-3時間	23	12.71%
	1-2時間	46	25.41%
	1時間未満	97	53.59%
合計	181	100.00%	
設問4 この講義の復習にどの くらいの時間を掛けま したか。	5時間以上	8	4.42%
	4-5時間	1	0.55%
	3-4時間	14	7.73%
	2-3時間	22	12.15%
	1-2時間	61	33.70%
	1時間未満	75	41.44%
合計	181	100.00%	
設問5 この講義の宿題にどの くらいの時間を掛けま したか。	5時間以上	20	11.05%
	4-5時間	3	1.66%
	3-4時間	17	9.39%
	2-3時間	20	11.05%
	1-2時間	41	22.65%
	1時間未満	80	44.20%
	合計	181	100.00%
設問6 この講義の内容をどの 程度理解できたとと思 いますか。	理解できた	81	44.75%
	ほぼ理解できた	85	46.96%
	どちらともいえない	11	6.08%
	あまり理解できなかった	3	1.66%
	理解できなかった	1	0.55%
合計	181	100.00%	
設問7 この講義の難易度は会 計大学院の講義として 適切だと思いますか。	適切	129	71.27%
	ほぼ適切	46	25.41%
	どちらともいえない	4	2.21%
	やや不適切	2	1.10%
	不適切	0	0.00%
合計	181	100.00%	
設問8 教員のこの講義に対す る準備は十分でした か。	十分	151	83.43%
	ほぼ十分	27	14.92%
	どちらともいえない	2	1.10%
	やや不十分	1	0.55%
	不十分	0	0.00%
合計	181	100.00%	

	選択項目	人数	割合
設問9 教員の説明や声量な ど、授業でのプレゼン テーションは良好でし たか。	十分	156	86.19%
	ほぼ十分	22	12.15%
	どちらともいえない	3	1.66%
	やや不十分	0	0.00%
	不十分	0	0.00%
合計	181	100.00%	
設問10 テキスト・参考書ある いはプリント等は適切 でしたか。	適切	136	75.14%
	ほぼ適切	40	22.10%
	どちらともいえない	4	2.21%
	やや不適切	1	0.55%
合計	181	100.00%	
設問11 この講義の成績評価の 方法は適切であると思 いますか。	適切	131	72.38%
	ほぼ適切	40	22.10%
	どちらともいえない	7	3.87%
	やや不適切	2	1.10%
合計	181	100.00%	
設問12 この講義のシラバスは 講義を理解する上で役 に立ちましたか。	役に立った	125	69.06%
	まあまあ役に立った	42	23.20%
	どちらともいえない	11	6.08%
	あまり役に立たなかった	3	1.66%
	役に立たなかった	0	0.00%
合計	181	100.00%	
設問13 総合的に見て、この講 義における教員のバ フォーマンスをどう評 価しますか。	評価できる	143	79.01%
	まあまあ評価できる	33	18.23%
	どちらともいえない	3	1.66%
	あまり評価できない	2	1.10%
	評価できない	0	0.00%
合計	181	100.00%	
設問14 この講義は公認会計士 試験を受験する上で役 に立つと思いますか。	役立つ	80	44.20%
	まあまあ役に立つ	27	14.92%
	どちらともいえない	47	25.97%
	あまり役に立たない	11	6.08%
	役に立たない	16	8.84%
合計	181	100.00%	
設問15 この講義は、将来の キャリアにおいて役立 つと思いますか。	役立つ	126	69.61%
	まあまあ役に立つ	36	19.89%
	どちらともいえない	14	7.73%
	あまり役に立たない	5	2.76%
	役に立たない	0	0.00%
合計	181	100.00%	
設問16 あなたが既に合格して いる資格試験等につい て、該当するものを選 んで下さい。	税理士会計科目/公認会 計士短答式/日商簿記1 級	76	41.99%
	日商簿記2級	78	43.09%
	上記について無し	27	14.92%
	合計	181	100.00%

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります。

2020 年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長	吉永 裕登
委員	青木 雅明
委員	木村 史彦
委員	尾関 規正

会計大学院アンケート実施報告書 2020 年度後期

2021 年 5 月発行

編集・発行：東北大学会計大学院ワークショップ委員会